

# 一般質問

6月定例会では、6月24日から26日までと、6月29日の4日間にわたり、会派代表質問7人及び個人質問(8人)が行われました。

会派代表質問については会派ごとに2項目、個人質問については議員ごとに1項目、合計22項目を掲載しています。

## (会派代表質問)

### 明政クラブ

#### 財政運営

**問** 今後10年間を見据えた財政運営について、高齢化などに伴う社会保障関連費の伸びを考慮した財政計画、国の財政再建の動きによる普通交付税等への影響、投資的経費の財源捻出の3点について伺いたい。

**答** 社会保障関連経費の多くは国の制度であるため、地方負担分については地方交付税に一定反映されるものと見込んでいます。普通交付税については、国の財政状況が厳しい中、地方への影響も考えられるが、今後も、総額確保について国に要望していく。投資的経

費については、収支改善を続けると同時に、「地方創生」の流れを活用し、国庫補助金の確保などを行い、必要な財源を確保したい。

#### 観光振興策

**問** 軍艦島保存の方針と、夜景の維持や進化のための取り組みについて伺いたい。

**答** 軍艦島の保存については、「島を守る『護岸』と坑口などの『生産施設』だけを保存する」から「失われた建物まで復元する」まで、5つのパターン分けを行っている。平成28年3月までに整備活用計画を取りまとめ、緊急性や費用等も加味し、具体的な施工計画を立てたい。また、夜景の維持や進化については、斜面市街地の灯りの整備



▲軍艦島の全景

が重要な課題であるため、関連機関や専門家との連携のもとプランの策定に取り組みとともに、視点場の環境整備などを進めていく。

### 市民クラブ

#### 被爆70周年の取り組み

**問** 被爆70周年の節目に、被爆体験者事業の改善を含め、被爆地域拡大の課

題にどのように取り組んでいくのか。

**答** これまでも、国への要望を重ねてきたが、「科学的・合理的根拠を示さなければならぬこと」が常に高いハードルとなってきた。未だ、それは見い出せていないが、高齢化し、苦しんでいる被爆体験者の援護の充実が喫緊の課題となる中、今年度は「救済」の観点から国に対し新たな要望を行う必要があると判断した。節目の年にあたり、踏み込んだ方策が講じられるよう努力したい。



▲7月に行った要望活動の様子

#### 沿岸漁業振興策

**問** 漁獲量が年々減り続け、価格も低迷し、漁業者は減っていくという負のスパイラルから抜け出せない現状についてどう考えるか。また、漁場環境改善の面から、海底耕うんを継続的に行うことが必要ではないか。

**答** 漁業の安定のためには、水産資源を管理し、回復することが重要な課題であり、藻場や漁場の造成などの各施策に取り組んでいる。また、海底耕うんは、継続的に行うことで効果の向上が期待できるとの調査結果もあるが、現時点では効果を見きわめることは難しい。今後、実施した海域の漁獲量などの推移を注視し、効果的な実施の在

り方を研究しながら取り組んでいく。

### 公明党

#### 被爆70周年における市民大行進

**問** 原爆犠牲者の冥福を祈り、世界に強く平和を訴えるため、被爆70周年の市民大行進をどのように計画しているのか。

**答** 参加した子どもたちの平和メッセージを込めた風船を一齐に空に放つバルーン・リリースの実施や、ポスター・標語の優秀作品の横断幕・ゼッケンへの活用を予定している。また、NPT再検討会議にユース代表団として参加した大学生や市内在学の留学生等へ参加を呼びかけたい。そのほか、関連イベントとして、世界こども平和会議の中で、世界162の国と地域の子どもたちが平和メッセージを掲げながら行進することを予定している。

#### 市の鳥の制定

**問** 長崎ペンギン水族館のペンギンの飼育種類数が9種類となり、世界一となったことを記念して、ペンギンを市の鳥として制定してはどうか。

**答** 平成27年は、6町と合併して10年、被爆から70年を迎えるため、区切りの機会に合わせて市の鳥を制定することについて検討したいと平成25年9月の一般質問で答弁を行った。また、今年